



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

6. 県内で発生している薬剤耐性トマト灰色かび病菌に対する有効薬剤の選抜

[要約]

県内の夏秋トマト産地で発生している複数（5 剤）の薬剤に耐性をもつ灰色かび病菌に対し、フルピカフロアブル、セイビアーフロアブル 20、ピクシオドライフロアブル、ジャストミート顆粒水和剤、ダコニール 1000 及びベルコートフロアブルが有効である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 技術

[背景・ねらい]

県内の夏秋トマト産地の一部では、アミスター20 フロアブル、ロブラール水和剤、アフェットフロアブル、カンタスドライフロアブル及びチオフアネートメチル（ゲッター水和剤の 1 成分）に耐性を示すトマト灰色かび病菌（以下、多剤耐性菌）が発生している。多剤耐性菌の発生は現時点では特定の一部地域に限られてはいるが、今後県内各産地への拡大や防除効果の低下が懸念されている。そこで、多剤耐性菌による被害軽減に有効な薬剤を選抜する。

[成果の内容・特徴]

1. 多剤耐性菌に対して、フルピカフロアブル、セイビアーフロアブル 20、ピクシオドライフロアブル、ジャストミート顆粒水和剤、オーソサイド水和剤 80、ダコニール 1000 及びベルコートフロアブルの 7 剤が有効である（表 1）。
2. 多剤耐性菌発生圃場において、フルピカフロアブル、セイビアーフロアブル 20、ピクシオドライフロアブル、ジャストミート顆粒水和剤、ダコニール 1000 及びベルコートフロアブルは葉の被害抑制に有効である（図 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 商品名が異なっても作用機構が同じ薬剤を連用すると、耐性菌の発達の恐れがある。耐性菌発達を防止するため、単一または FRAC コード（表 1）が同じ薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。なお、薬液はむらなく十分付着するよう、丁寧に散布する。
2. FRAC コードについては農薬工業会の HP 参照。

(<https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/code.html>)

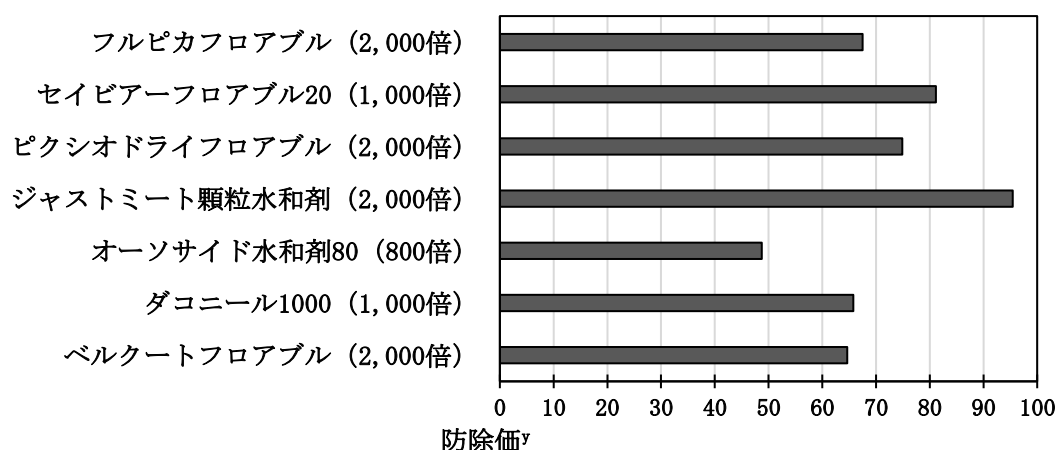


[具体的データ]

表1 多剤耐性菌に対する各種薬剤の防除効果

FRAC コード	薬剤グループ	商品名（希釈倍数）	防除価 ^z
7	SDHI殺菌剤	ネクスターフロアブル（1,000倍）	22～66
		パレード20フロアブル（2,000倍）	39～80
9	AP殺菌剤	フルピカフロアブル（2,000倍）	100
12	PP殺菌剤	セイビアーフロアブル20（1,000倍）	100
17	KRI殺菌剤	ピクシオドライフロアブル（2,000倍）	100
17、12	KRI+PP殺菌剤	ジャストミート顆粒水和剤（2,000倍）	100
M3	ジチオカーバメート	ジマンダイセン水和剤（800倍）	38～92
M4	フタルイミド	オーソサイド水和剤80（800倍）	100
M5	クロロニトリル	ダコニール1000（1,000倍）	44～100
M7	ビスグアニジン	ベルコートフロアブル（2,000倍）	65～97

^z各薬剤を散布したキュウリポット苗の子葉に接種後の病斑長から次式により算出
 防除価＝（無散布区病斑直径－薬剤処理区病斑直径）／無散布区病斑直径×100
 3～6回の試験のうち、最小～最大の値を示す

図1 多剤耐性菌発生圃場^zにおける防除効果

^zアミスター20フロアブル、アフェットフロアブル、ロブラール水和剤、カンタスドライフロアブル及びチオファネートメチル（ゲッター水和剤の1成分）耐性菌を接種した圃場

^y防除価は発病率より求めた

[その他]

研究課題名：薬剤耐性トマト灰色かび病菌に対する有効薬剤の選抜

予算区分：受託（全農委託）

研究期間：2019年度

研究担当者：金谷寛子、矢尾幸世、尾島正啓

関連情報等：1）試験研究主要成果、[平30（61-62）](#)